

## 令和6年度 第2回千曲市地域公共交通活性化協議会 会議概要

期 日：令和6年12月18日（水）午前10時00分～午前11時45分

場 所：千曲市役所301会議室

出席者：委員出席19名（8名欠席）、事務局3名

### 1. 会議事項

#### (1) 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の一次評価について

(事務局)

資料に基づいて説明

(柳沢委員)

資料の記載方法について、前回の評価結果とそれをどう今回の事業に反映させたかは、分けて記載した方が分かりやすいと思います。

また、今回目標に達成しなかった要因について記載がありますが、今後の改善点がそれに対応していません。目標の未達成に対応する改善点を具体的に記載してはどうでしょうか。

(事務局)

ご指摘いただいた点について修正した修正案を改めて事務局より提示します。後日、書面で皆さまにお諮りしたいと考えますがいかがでしょうか。

(滝沢議長)

事務局から提案がありましたが、皆さまよろしいでしょうか。ご異議がないようですので、後日修正案について書面協議を行うということで進めたいと思います。

(北村委員)

東部地区に在住していますが、デマンドの利用実態を見てみると、少人数の利用者に対して、車両サイズが大きいと感ずることがあります。また、生活が不便な地域に在住しているものとしては、利便性をもっと高めてほしいと思います。

(事務局)

車両のダウンサイジングについて、利便性や経費など様々な視点で総合的に検討してまいります。利便性については、皆さんの日常生活の不便を解消できる公共交通となるようこれからも利便性の向上に努めていきますのでよろしくお願いします。

(春日委員)

県内の他自治体の事例として新聞で紹介されていましたが、千曲市もA Iを活用したオンデマンドタクシーを導入してはどうでしょうか。

(事務局)

A I オンデマンドタクシーについては、導入した市町村によれば評価が様々だと聞いております。そのため、千曲市の実情に適しているのかどうかや費用対効果などについて、これからも研究してまいります。

## 2. 協議事項

### (1) 千曲市デマンド型乗合タクシー実証運行について

(事務局)

資料に基づいて説明

(春日委員)

実証運行期間を延長するとのことですが、自宅から目的地まで行けるようなA I オンデマンドシステムに変えてはどうでしょうか。

(事務局)

千曲市のデマンド型乗合タクシーは、地域の交通事業者の皆さんと協力して運行しています。しかし、A I オンデマンドのシステムを導入すると、県外の企業などがそのオペレーションに関与することになるため、市としては交通事業者の支援のためにも、出来る限り地域の交通資源を活用して公共交通を運行していきたいと考えています。ただ、今後、新しいシステムや制度の導入を検討するにあたっては、協議会で皆さんと議論を重ねていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

(北村委員)

運行経費の視点で見ると、デマンドタクシーは乗れば乗るほど市の負担が大きくなり、そうするとバスの方が安く済むという考えでよいのでしょうか。であれば、デマンドでなく、バス利用を促進するような政策を打つべきだと考えます。

(事務局)

おっしゃるとおり、デマンドの利用者が増えた場合、運行経費で見るとバスの方が安く済むこともありますが、デマンドでないと乗降できないような停留所もあるため、バスが容易にデマンドを代替できるという訳ではありません。バスだと一日に数回しかこないような停留所も、デマンドであれば決まった時刻にいつでも呼ぶことができますので、地域の適性に合わせて、デマンドを導入している状況です。

(柳沢委員)

まず、デマンドについてODデータ含め、これだけ詳細な情報を整理していただき感謝を申し上げたい。先ほど委員さんがおっしゃったバスの方が安く済むのではないかという懸念、これは当初からありました。ただ、デマンドの方が利便性が高いことは確かです。それなのに利用が進んでいない、乗合率が低いのはなぜなのか。その検証のためにも、デマンドのODと、デマンドに切り替わる前のバスのODとを比較した方がよいと思いますが、結局は利便性以外の何かの要因でデマンドを利用しない人が生まれているのではないかと考えてしまいます。

例えば、料金。先ほど事務局の説明において、周知によって利用を促進していくとありましたが、周知だけでは需要回復は難しい。限定的に料金を割り引く、無料にするなど、とにかく利用してみてくださいといった思い切った施策も必要ではないでしょうか。交通事業者のサービス供給の観点から難しいかもしれないが、せっかくの実証運行期間なので、そういった施策にもチャレンジしてみてもいいと思います。

また、委員さんからA I オンデマンド交通に対する意見があったので、それにも触れておきたいと思います。A I は最短経路を導くではありません。最短経路は1950年代からすでに導くことができます。A I は、都会などの移動の需要と供給が多い地域で最適なルートを導くもの。移動需要の少ない地方では、A I を導入してもタクシー事業者をあっちこちに連れて回ってしまうだけです。A I オンデマンドにすると、車両や運転手をその事業に張り付けなくてはならなくなります。その結果、本

業のタクシー業に悪影響が出ます。皮肉なことに、移動手段の最後の砦であるタクシー事業者が、AIオンデマンドを導入したことにより廃業するという例も実際にあります。

また、行政が負担するコストもAIオンデマンドだと市外、県外に流出してしまいます。地域の事業者に直接支出すれば、地域内で経済循環が起きますが、AIオンデマンドではそうはなりません。そのため、地方においてはAIオンデマンドの導入を検討するのは相当慎重に行ったほうがよいと思います。小規模のタクシー事業者の場合、試しにやってみて、後で戻すということも難しい。AIオンデマンドがうまくいかないと感じた時、行政がコストをかけて元に戻したいとなっても、簡単には元に戻せないこともあります。

(事務局)

現在の交通計画の中でも、公共交通利用のきっかけづくりとして運賃の割引などの具体的な事業が位置付けられています。いただいたご意見も参考にして、今後施策について検討していきたいと思います。

(高山委員)

当社のタクシー部門もAIオンデマンドの事業に協力していますが、時間や場所の利便性を上げた結果、乗合での移動にはならず、車両の動きはほぼタクシーだと聞いています。しかも、柳沢委員がおっしゃったように、専用車両として運転手と車をその事業に張り付けなくてはなりません。空いた時間、通常のタクシーとして稼げた時間がなくなってしまっており、行政からの運行委託料も十分とはいえない状況です。そのため、事業者として割が合わないという声も出ています。

AIオンデマンド交通は全国的に流行り言葉のようになっていますが、中身をよく検証しながら検討してほしいと思います。立場によって色んな意見があると思うので、委員の皆さんの意見を偏りのないように吸い上げていただきたい。その際は、ぜひ交通事業者も生きられるような視点での協議をお願いします。

## (2) 令和6年度ダイヤ改正（令和7年4月14日改正）案について

(事務局)

資料に基づいて説明

(松林委員)

私の知人が、大田原線の昼間のダイヤを今回の改正案のように元に戻してほしいと言っていました。利用者の声が届いたようで良かったです。

(事務局)

現在のダイヤの方が都合がよいという方も一定数いらっしゃると思いますが、今回は元に戻してほしいという利用者の声が多く届き、利用者数も減少しているため、改正案に反映しました。

### (3) その他

(吉瀬委員)

J R東日本では、来年3月15日からSuicaの利用駅の拡大を行い、篠ノ井線「姨捨駅」でもSuicaが利用可能になります。今後もSuica機能の拡充が予定され、より便利になっていきますので、まだSuicaをお持ちでない方は、ぜひ利用を検討していただきたいと思います。

## 3. その他

### (1) 千曲市高齢者運転免許証自主返納支援事業の制度改正案について

(事務局)

資料に基づいて説明

以上